令和５年度 大分県公立学校教頭会「第３回理事会研修会」講演

ＧＩＧＡスクール構想とその対応について

日時：令和5年9月12日（火曜日）9：30～11：00

場所：大分県　教育会館　201

大分県教育庁教育デジタル改革室

指導主事　西元陽佑

本日の内容

１．国の動向　　（なぜ、ＧＩＧＡスクールか）

２．県の現状と課題（令和和5年度　全国学力・学習状況調査の学校質問紙の結果）

３．県の施策　　（方針・プラン等）

４．教頭とICT　　（教員のICT活用指導力の向上）

国の動向

なぜ、ＧＩＧＡスクール構想なのか

「GIGA」

Global and Innovation Gateway for All

（全ての児童生徒のための世界につながる革新的な扉）

OECD 生徒の学習到達度調査査（PISA2018）

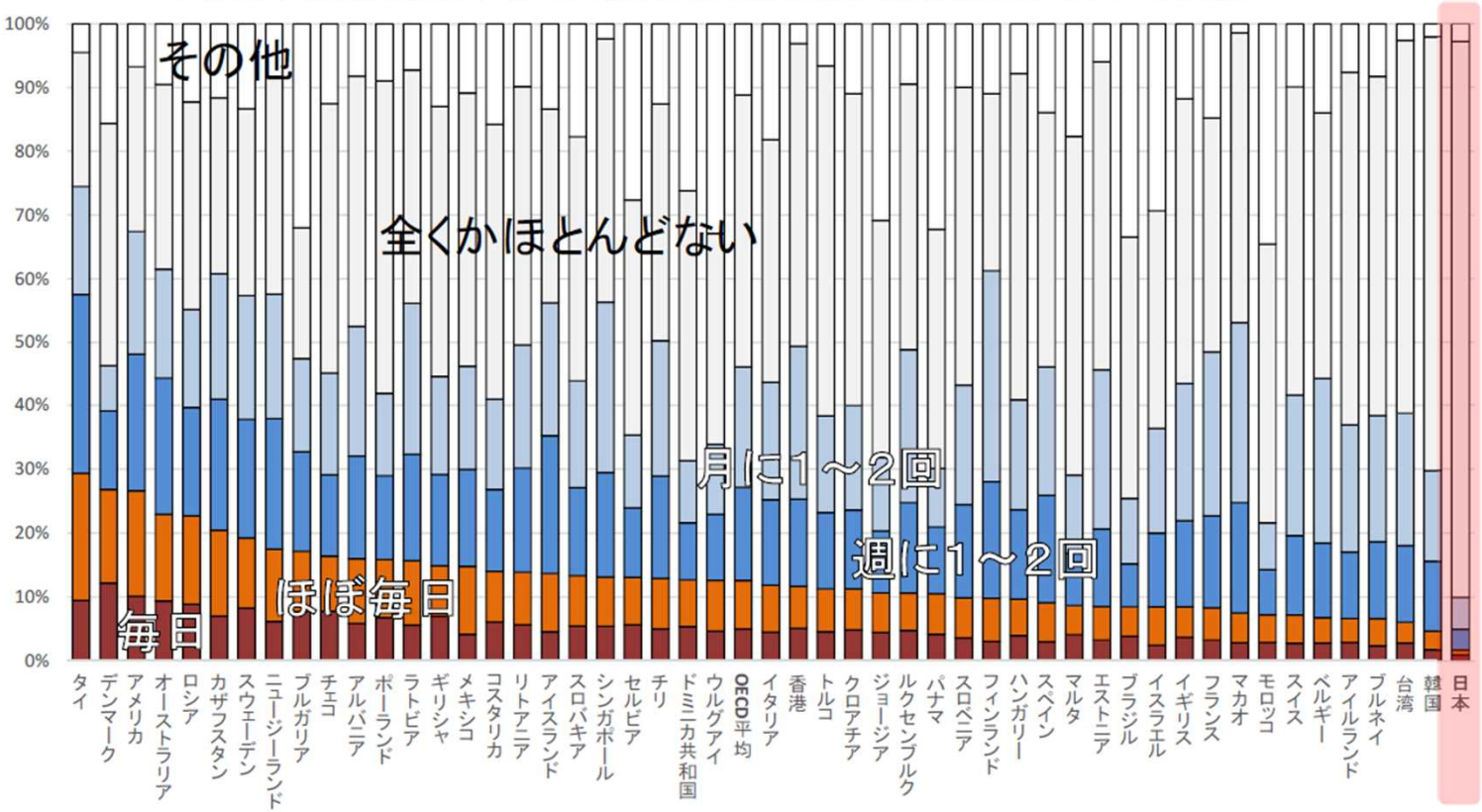
● OECD加盟国（37か国）における比較

[ ] は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

	読解力	平均得点	数学的リテラシー	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	エストニア	523	**日本**	**527**	エストニア	530
2	カナダ	520	韓国	526	**日本**	**529**
3	フィンランド	520	エストニア	523	フィンランド	522
4	アイルランド	518	オランダ	519	韓国	519
5	韓国	514	ポーランド	516	カナダ	518
6	ポーランド	512	スイス	515	ポーランド	511
7	スウェーデン	506	カナダ	512	ニュージーランド	508
8	ニュージーランド	506	デンマーク	509	スロベニア	507
9	アメリカ	505	スロベニア	509	イギリス	505
10	イギリス	504	ベルギー	508	オランダ	503
11	**日本**	**504**	フィンランド	507	ドイツ	503
12	オーストラリア	503	スウェーデン	502	オーストラリア	503
13	デンマーク	501	イギリス	502	アメリカ	502
14	ノルウェー	499	ノルウェー	501	スウェーデン	499
15	ドイツ	498	ドイツ	500	ベルギー	499
16	スロベニア	495	アイルランド	500	チェコ	497
17	ベルギー	493	チェコ	499	アイルランド	496
18	フランス	493	オーストリア	499	スイス	495
19	ポルトガル	492	ラトビア	496	フランス	493
20	チェコ	490	フランス	495	デンマーク	493
	ＯＥＣＤ平均	487	ＯＥＣＤ平均	489	ＯＥＣＤ平均	489

OECD/PISA 2018年　ICT活用調査

学校での使用頻度：ほかの生徒と共同作業をするために、コンピュータを使う



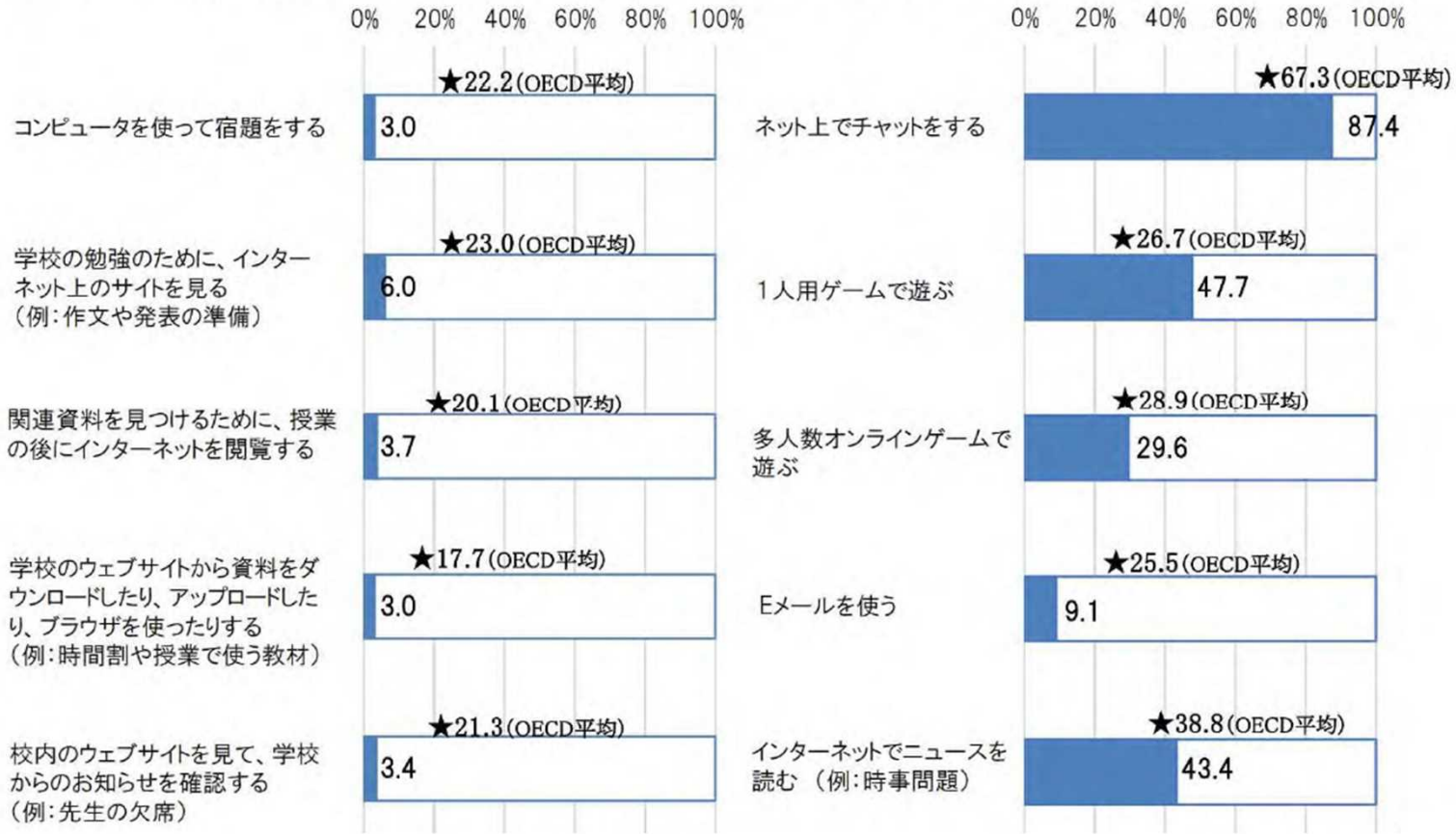
出典　OECD生徒の学習到達度調査（PISA2018）「ICT活用調査」

ICTを活用した学習に関する他の指標も軒並み最下位

日本の学校は、学習でのICTの使用頻度が低い

OECD/PISA 2018年　ICT活用調査

● **学校外での平日のデジタル機器の利用状況**　（青色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計）



日本の子どもにとって、ICTは・・・

国の動き（令和元年　６月～）

〇Society5.0
IoT、ビッグデータ、AI、ロボット等

〇変化の激しい社会

時代の変化

〇情報教育・ICT活用教育の遅れ

〇情報活用能力、ICT活用指導力に課題

子どもたち等の実態

学校教育の情報化の推進に関する法律　令和元年６月21日全会一致で成立

GIGAスクール構想の実現　令和元年12 月

・学校における高速大容量のネットワーク環境(校内LAN)の整備を推進

・特に、義務教育段階において、令和5年度までに、全学年の児童生徒一人一人がそれぞれ端末を持ち、十分に活用できる環境の実現を目指す

前倒し

令和2年2月非常事態宣言（コロナ）　学校が臨時休校へ
令和2年7月～令和3年3月頃に整備が加速度的に進んだ

GIGAスクール構想は、単なるコロナ対策ではない

新学習指導要領における情報教育・ICT活用教育のポイント

小学校 2020　　中学校 2021　　高等学校 2022から全面実施

小・中・高　共通のポイント（総則）

〇**情報活用能力**を言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け

〇学習のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実を明記

小・中・高別のポイント（総則及び各教科等）

〇小学校プログラミング教育の必修化を含め、小・中・高を通じてプログラミング教育を充実

☞小学校　文字入力など基本的な操作を習得　新たにプログラミング的思考を育成

☞中学校　技術・家庭科(技術分野)においてプログラミングに関する内容を充実

☞高校　共通必履修科目「情報I」を新設し、全ての生徒がプログラミング、ネットワークやデータベースの基礎等について学習

今後のGIGAスクール構想のポイント

義務教育段階の１人１台端末の整備状況について

令和4年度末時点で全国の1812自治体のうち99.9%が整備完了

※未整備の2自治体も令和5年度内に整備完了予定

今後の主な課題

〇各自治体によるサポート体制

・安定的なインターネットへの接続
・ICT支援員の配置（4校に1人）
・家庭の通信環境の支援

〇ICT活用指導力の向上

・各自治体や各学校の研修や組織体制の充実
・指導者用端末の配備の充実
・効果的な活用事例の共有（授業での活用や端末持ち帰りの実践）
・先進技術の活用
・情報モラル教育の充実

令和5年度　全国学力・学習状況調査（質問紙調査）の結果

授業で「ほぼ毎日」活用している割合　※1人1台端末（学習者用端末）を含むICT機器

大分県	小学校 66.4%	前年比　13.9%↑	全国平均　63.6%
	中学校 66.1%	前年比　8.1%↑	全国平均　61.4%

自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で「ほぼ毎日」使用している割合　※1人1台端末（学習者用端末）を含むICT機器

大分県	小学校 19.8%	前年比　4.6%↑	全国平均　15.9%
	中学校 28.0%	前年比　7.8%↑	全国平均　15.7%

活用頻度や使用方法について、昨年度と比べて上昇し、全国平均も上回る

家庭に「毎日」持ち帰っている割合　※「毎日持ち帰って、毎日利用させている」と「毎日持ち帰って、時々利用させている」の合計　※1人1台端末（学習者用端末）

大分県	小学校 21.1%	前年比　13.3%↑	全国平均　28.8%
	中学校 26.3%	前年比　9.5%↑	全国平均　37.5%

毎日の持ち帰りについて、昨年度と比べて上昇するも全国平均は下回る

大分県の施策

令和5年度　大分県教育委員会の重点方針

大分県公立学校教職員の人材育成方針

ICT活用教育推進プラン2022

令和5年度

大分県教育委員会の重点方針

―「教育県大分」の創造に向けて ―

感染症対応の経験を踏まえ学びを保障するとともに、「教育県大分」創造プラン2016の下、教育を担う人材の確保・育成やチーム学校による取組を充実させ、教育の多様性と包摂性を高めつつ教育水準の向上を図ります。

ＧＩＧＡスクール構想による教育分野のデジタル改革は、主体的・対話的で深い学びの実現とともに、学校における働き方改革に繋がることも踏まえ着実に進めます。

また、文理の枠を超えたＳＴＥＡＭ教育等を通じて課題発見・解決力やデータサイエンス等を活用する力の涵養を図るなど、地方創生を担う多様な人材の育成に取り組みます。

1　子どもの力と意欲の向上に向けた組織的取組の推進
― 「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上 ―

コロナ禍で得られた知見を「共有知」として教育活動を推進
- ICTの利点を活用した「芯」の推進・更なる深化
- 「当たり前」の見直しや目的・ねらいの再検討による働き方改革の加速

学校マネジメントの深化	◆「学校マネジメント４つの観点」に基づく学校マネジメントの深化 ◆「地域とともにある学校」への転換に向けたＣＳ・地域学校協働活動の一体的推進
授業改善の徹底	◆「新大分スタンダード」を意識した単元構想による授業改善（小・中） ◆３つのビジョン(方向性)と６つのアクション(方策)に基づく授業改善（高） ◆「個別の指導計画」の作成活用を通じた特別支援教育の視点からの授業改善
体力向上の推進・健康課題への対応	◆１校１実践の短期の検証・改善など運動の習慣化・日常化に向けた取組の推進 ◆生活習慣・食習慣の改善とむし歯本数の減少に向けたフッ化物洗口の取組拡充
いじめ・不登校対策等の推進	◆専門スタッフ(SC・SSW)の活用促進や関係機関との連携強化に向けた情報共有 ◆「人間関係づくりプログラム」の取組やいじめ・不登校に係る校内委員会の充実
教職員の資質向上	◆教職員のＩＣＴ活用指導力の向上を図る支援や研修の充実 ◆教員育成指標の改訂を踏まえた若手教職員等の着実な育成
学校における働き方改革の推進	◆勤務時間の適正管理の徹底と在校等時間の縮減に向けた働き方改革の推進 ◆地域に応じた子どもたちの文化芸術・スポーツ環境の構築に向けた実践研究

2　ＧＩＧＡスクール構想の実現　― 教育のデジタル改革 ―

- ◆１人１台端末の効果的な活用による児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの充実
- ◆ＩＣＴ教育サポーター(情報通信技術支援員)の配置拡充や校務支援システム等を活用した校務効率化
- ◆遠隔・オンライン教育やＡＩドリル等の活用充実と情報モラルやデジタル・シティズンシップの涵養
- ◆障がいのある児童生徒の学習保障・生活支援に向けたＩＣＴの活用促進
- ◆授業、家庭学習等での１人１台端末活用の日常化や不登校児童生徒等の学ぶ機会の確保

3　地域を担う人づくりと活力ある地域づくりの推進

- ◆幅広い分野で新しい価値を見つけ生み出す人材の育成に向けたＳＴＥＡＭ教育等の探究的な学びの推進
- ◆地域を担う人づくりと活力ある地域づくりに貢献する魅力・特色ある高等学校づくりの推進
- ◆科学技術への好奇心や先端技術活用意欲の高揚に向けた体験型子ども科学館O-Laboの充実
- ◆さくらの杜高等支援学校での取組の共有等による職業教育の充実や大分地区新設特別支援学校等の整備

学校経営方針にGIGAスクールに
関係する言葉はどのくらいありますか？

大分県公立学校教職員の人材育成方針

令和5年3月 改訂 大分県教育委員会

なぜ改訂したのか？

令和4年8月に「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」が改正されたことに伴い、令和5年1月に「大分県公立学校教員育成指標」を改訂し、同年3月に人材育成方針も改定した。

（国の指針で5つに整理された教師に共通的に求められる資質能力）

① 教職に必要な素養（使命・研究と修養）
② 学習指導（高い専門性と授業力）
③ 生徒指導（個に応じた指導や集団指導）
④ 特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応

⑤ ICTや情報・教育データの利活用
学校におけるICTの活用の意義を理解し、授業や校務等にICTを効果的に活用するとともに、児童生徒等の情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。

大分県公立学校教職員の人材育成方針

令和5年3月 改訂 大分県教育委員会

どのように改訂したのか？　～　教諭について　～

※主にICTに係る部分について

ICTや情報・教育データの利活用（教諭等）

（第0ステージ）
ICT及び情報・教育データの利活用に関する目的の理解や知識・技術を獲得している。

（第1ステージ）
ICT及び情報・教育データの利活用した授業、生徒指導が実践できる。

（第2ステージ）
ICT及び情報・教育データの利活用した工夫ある授業、生徒指導が実践できる。

（第3ステージ）
ICT及び情報・教育データの利活用した授業、生徒指導について同僚に指導助言できる。

大分県公立学校教職員の人材育成方針

令和5年3月 改訂 大分県教育委員会

どのように改訂したのか？　～　管理職について　～

※主にICTに係る部分について

ICTや情報・教育データの利活用（管理職）

（教頭・副校長）
ICT及び情報・教育データを利活用し、改善すべき自校の課題を的確に把握・分析ができる。

（校長）
ICT及び情報・教育データの利活用について、ビジョンの策定及び体制の構築ができる。

大分県学校教育情報化推進計画　**ICT活用教育推進プラン2022**

＜プランの目的＞

Society5.0を主体的に生き、未来の大分を創造する子どもたちの育成

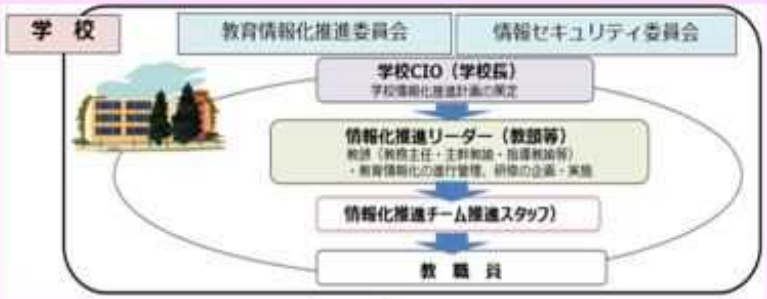
プラン2022

基本方針1　子どもたちの情報活用能力の向上

基本方針2　教員のICT活用指導力の向上

基本方針3　教育の情報基盤の整備

基本方針4　教育の情報化に向けた体制整備



教頭とICT

校内の情報化推進リーダーとして

※または、情報化推進リーダーをサポートする役割として

「GIGA」

Global and Innovation Gateway for All

静岡市の小学校の持ち帰り事例　YouTube動画

『クラウド・１人１台端末の持ち帰りで変わる家庭学習』

https://www.youtube.com/watch?v=a3dwHzH0Sb8

動画の概要

（１）持ち帰り
- 自主的な活動が増えてきた。
- 学級通信や学級新聞を家で、作ってくる児童。
- 歌声伴奏の動画を作成。⇒ 他の児童にも、家庭練習を呼びかける。

（２）ハイブリッド宿題
- 例えば、動画を見て、スライドにまとめる。
- 自身の学びや活動を動画で振り返り、シート等にまとめる。
- 家庭学習と授業を結びつけた宿題（反転的な取組）

（３）授業設計の考え方
- 友だちと関わる時間を増やすため、個人で考えをまとめたり、個人でスライドを作ったり等、家庭でできることは家庭学習で行う。
- 充実した交流を通して、考えを深める授業に変わってきた。

静岡市の端末持ち帰り（概要）

〇令和3年度から端末の導入
⇒Wi-Fi環境がない家庭に市教委からモバイルルータを貸し出し、全家庭の環境を整えることを先に実施

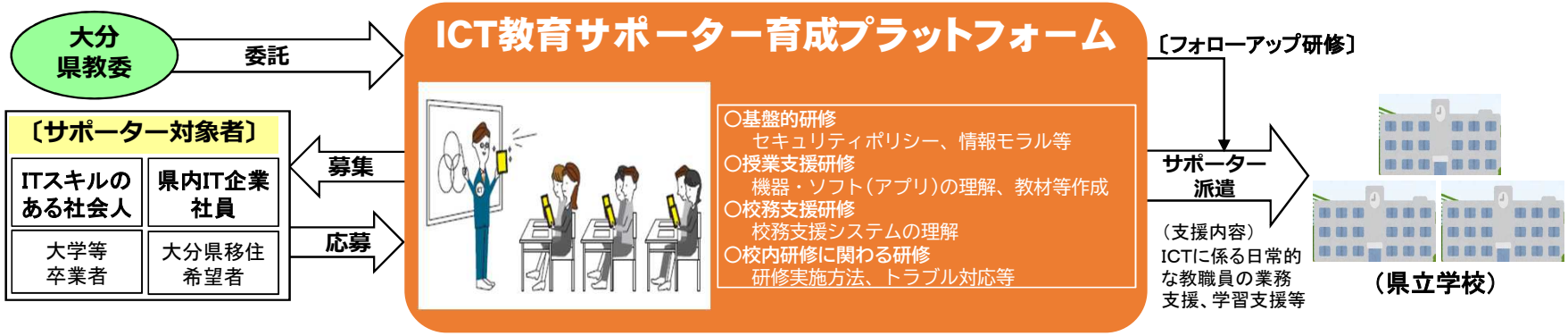
〇令和3年度に、1学校につき、1クラスは必ず持ち帰りをさせ、オンラインによる学習支援を実施することを義務付け、その成果を学校内で共有させた。

〇令和3年9月に全小中学校（小3以上）で持ち帰りを実施するよう通知。

＜静岡市の持ち帰りのコンセプト＞
⇒目的は「学びの連続性」「子供の主体的な学び」

〇1・2年生は令和5年度の4月から実施予定

ＩＣＴ教育サポーター育成プラットフォーム



ＩＣＴ教育サポーター業務

＜対象校＞
- 全県立学校（高校、中学、特別支援）　**計58校**

＜実施体制＞
- 1校につき複数名のICT教育サポーターがチームを組んで担当
- チームごとに、**週1回（月4回程度）学校を訪問し**、現場を支援

＜実施業務＞
- ICTに係る日常的な業務支援、学習支援
- オンライン会議等（遠隔授業含む）の機器操作支援
- 校内研修会の実施

プラットフォーム業務

＜コーディネータ業務＞
- ICT教育サポーターの募集、採用
- ICT教育サポーター育成研修の企画、実施
- 学校への周知、学校とICT教育サポーターとのマッチング
- ICT教育サポーターのチーム編成、派遣
- ICT教育サポーターへのフォローアップ研修の実施

ＩＣＴ機器の操作支援 ⇒ ＩＣＴ活用指導力の向上 ⇒ サポート業務の高度化、効果的なＩＣＴ活用の実現

ICT活用授業＆探究ライブラリポータルサイト

〇ICTを活用した優良授業の横展開を図るため、令和4年7月に開設し、市町村・県立学校の好事例を収集・掲載。インタビュー動画も4本公開済。

〇令和5年度は、好事例の蓄積に加え、ICT活用事例のショート動画8本を公開予定。ショート動画は令和5年7月時点で4本を制作済。また、令和5年9～3月にかけて、12本のインタビュー記事を掲載する。対象者は県内の教育関係者（教員、ICT支援員等）。

〇ICTを活用した優良事例を446件掲載（小78・中37・高56・特支66・探究的な学びの実践事例209）
〇年齢・学年・教科など、ジャンルに応じてサイト内の絞り込み検索が可能
〇アクセス数は開設約1年で48000件超
〇今後も新規事例、インタビュー記事、ショート動画などサイトの内容を充実させていく

【ポータルサイト利用者（教員）の声】

〇ICT機器やタブレット活用のイメージがもてた

〇今後も各教科の好事例を増やしてほしい

〇研究会や授業参観での授業を考える際に役に立った

「　大分　ICT　ライブラリ　」で　検索

令和5年度　1人1台端末を活用した小・中学生プレゼンテーションコンテスト

【目的】・児童生徒の**情報活用能力**の育成
・教員の**ICT活用指導能力**の向上

対象　：　大分県内の全ての小・中学校

（エントリー受付期間）
令和5年6月23日～11月22日

（スライドデータ提出）※予備審査はスライド審査のみ
令和5年12月13日（水）まで

日時　：　令和6年2月17日（土曜日）
13:30～16:30

場所　：　大分県教育センター
出場　：　予備審査を通過した小学校6チーム、
中学校6チーム

令和4年度大会は244チームが予備審査にエントリーしました！

【小学校の部】	優勝	豊後大野市立菅尾小学校
	準優勝	中津市立北部小学校
【中学校の部】	優勝	玖珠町立くす星翔中学校
	準優勝	臼杵市立西中学校

本格的な会場とプロの演出！　最高のステージで最高の経験を！

詳細は、教育デジタル改革室のホームページから！

「地域や学校の魅力発信」「総合的な学習で学んだこと！」「児童生徒から学校や社会に対する提案」などテーマは自由です。
多くの学校からのエントリーをお待ちしています！